

## 資料室だより 164

Vater unser について

「主の祈り」、ラテン語では「Pater noster」、ドイツ語では「Vater unser」、この祈りは聖書なかでイエスによって直接弟子たちに教えられた祈りとして大変重要なものです。カトリック教会のミサでもプロテスタント教会の礼拝でも必ず唱えられる、典礼の核となる祈りであり、超教派的な祈りです。ラテン語（グレゴリオ聖歌）で歌われる場合もドイツ語の場合も旋律があります。ドイツ語の場合はコラールというジャンルに分類されます。今回はそのコラール *Vater unser im Himmelreich* についてご紹介します。

私たちは *Evangelisches Gesangbuch*（通称 EG）344 番でこのコラールの旋律を知ることができます。1539 年にルターによる歌詞が印刷され、同年 *Geistliche Lieder aufs newgebessert und gemehrt*（ライブツィヒ）旋律とともに所収されました。

さて、このコラールに基づいたオルガン曲にどんなものがあるかを調べるには *Martin Bieri* の *Ricerca* というツールを使います。*Vater unser* のところを見ますと、108 曲ものオルガン曲が出てきます。バッハが一番多く 11 曲あります。

資料室には *Choralvorspiele zum evangelischen Gesangbuch* という上記の EG の順番にコラール前奏曲を配列した曲集がありますので 5 巻の 344 のところを開くと *Scheidemann, Lorentz, Mendelssohn, Reger, Grabner, Buxtehude* の *Vater unser* が出てきます。

今回、特にご紹介したいのは *Corpus of early keyboard music*,<sup>13</sup> の「*Johann Ulrich Steigleder: Tabulatur buch dass Vatter unser 1627*」です。アメリカ音楽学会編纂のすぐれたエディションです。1627 年に出版されたオルガン・タブラチュアで 40 曲の *Vater unser* が所収されています。シンプルなコラールの旋律をもとに多種多様なカントゥス・フィルムス労作がされています。「4 声ファンタジア、あるいはフーガの技法で」ではじまり、上声部に旋律があるコラール、テノールに旋律があるコラール、バスに、、、、という具合に対位法練習の規範になるような楽曲、また 2 声対位法、というタイトルで引き延ばされた定旋律に対旋律が華麗に付されていく楽曲、またアルトとバスに定旋律があり、それにソプラノとテノールが対旋律をつけて 3 声、あるいは 4 声で演奏可能な楽曲、終曲はトッカータの手法で変奏曲つき、となって実に華麗な技巧的な 1 曲となっています。すなわち *Vater unser* の旋律によるあらゆる対位法の試みがなされているわけです。どの曲も定旋律がはっきりと聞き取れるので「主の祈り」の言葉を忘れることなくルター派コラールの靈性に貫かれた瞑想的な奏楽になるものから演奏会用ピースまで *Vater unser* から発した音楽が広がります。